

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書の訂正届出書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	平成25年8月13日提出
【発行者名】	アムンディ・ジャパン株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役 ニコラ・ソヴァーヂュ
【本店の所在の場所】	東京都千代田区内幸町一丁目2番2号
【事務連絡者氏名】	横田 陽子
【電話番号】	03-3593-5928
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	アムンディ・米国・ユーロ投資適格債ファンド
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券の金額】	継続募集額： 上限5,000億円
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

1. 【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

平成25年8月13日付にて有価証券報告書を提出いたしましたので、平成25年2月12日付にて提出いたしました有価証券届出書（以下「原届出書」といいます）の関係情報を新たな情報に訂正し、また記載事項の一部に訂正若しくは追加を行うため、本訂正届出書を提出するものであります。

2. 【訂正事項】

下線部分は、訂正もしくは追加箇所を示します。

<更新・訂正後>に記載されている内容は原届出書に更新されます。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 1 ファンドの性格 (1)ファンドの目的及び基本的性格」につきましては次の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

ファンドは、主として、米国債券市場（社債等）へ投資するファンドと、ユーロ債券市場（国債等公共債・国際機関債・社債等）へ投資するファンドの毎月分配クラスに投資することにより、中長期的な信託財産の着実な成長と安定的な収益確保を図ることを目指して運用を行うことを基本方針とします。

〔ファンドの特徴〕

1. 原則として毎月12日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行うことを目指します。

ファンドは、投資信託証券に投資した結果得られるインカム・ゲイン¹やキャピタル・ゲイン²を分配原資とします。

運用状況（基準価額水準および市場動向）等によっては分配を行わないこともあります。

原則として、為替ヘッジを行わないため、分配金は為替相場の変動の影響を受けます。

1 公社債や預金の利息収入、株式の配当のことをいいます。

2 有価証券を売買することによって得られる売買益のことをいいます。

2. 米国とユーロ各国の国債等公共債・国際機関債・社債等へ幅広く投資します。

米国債券市場（社債等）へ投資するファンドとユーロ債券市場（国債等公共債・国際機関債・社債等）へ投資するファンドの組入比率は、原則として、均等配分を基本とします。

国債等公共債	:	国が発行する債券が国債、地方自治体が発行する債券が地方債、国が直接監督している公庫、公団、事業団などの法人が発行する債券が政府機関債であり、これらをまとめて公共債といいます。
国際機関債	:	国際機関が発行する債券です。
社債	:	企業が発行する債券です。民間の事業会社が発行する事業債、転換社債および新株引受権付社債(ワラント債)のことを指します。

各投資信託証券の組入対象債券の格付は、原則として、投資適格債（トリプルB格[BBB - /Baa3]以上）とします。

「格付」とは、債券などの元本および利息の支払が償還まで当初契約の定め通り履行される確実性の程度を評価したものをいいます。信用度の低い格付をもつ債券ほど、元本および利息の支払が償還まで定め通りに履行される確実性が低く（信用リスクが大きき）なります。

3．市場と通貨がペアです。

米国とユーロの2大債券市場に投資します。

米ドルとユーロの2つの通貨に分散投資することにより、為替変動リスクを軽減することに努めます。

*米ドルとユーロの2つの通貨に分散投資することにより、為替変動リスクを軽減することに努めますが、円独歩高など外国為替相場等の影響により、為替変動リスクが軽減されない場合があります。

4．2つの運用会社が運用を行う、2種類のファンドに投資します。

米国はドイツ・アセット・マネジメント株式会社が運用する「ドイツ・米国投資適格社債ファンド（適格機関投資家専用）」に、ユーロはアムンディが運用する「Amundi Funds ボンド・ユーロ・アグリゲート」および「Amundi Funds ボンド・ユーロ・コーポレート」に投資します。

〔ファンドの仕組み〕

ファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。

ファンド・オブ・ファンズとは、複数の投資信託証券に投資する投資信託のことをいいます。



※ キャッシュポジションを除いた資産におけるおよその比率です。この比率は変更することがあります。

資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

信託金の限度額は、5,000億円です。ただし、委託会社は、受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

追加的記載事項

債券について

債券とは、国、地方公共団体、企業などが、広く一般の投資者からまとまった資金を一定期間（短期～長期）調達することを目的として発行するものです。

◎発行体による分類（債券の種類）

- 国債とは国が発行する債券です。
- 社債とは企業が発行する債券です。

*債券の種類は上記以外にもあります。

<イメージ図>
債券の仕組み

◎信用度による分類

■債券の格付・利回りと信用リスク

(2013年5月末現在)

信用度	スタンダード & プアーズ社		ムーディーズ社		主要投資対象
	格付	利回り	格付	利回り	
低い	投資適格債 (BBB 格以上)	AAA	+	Aaa	1
		AA	-	Aa	2
		A	+	A	3
		BBB	-	Baa	1
高い	ハイイールド債 (高利回り債/ 投機的格付債) (BB 格以下)	BB	-	Ba	2
		B	+	B	3
		CCC	-	Caa	1
		CC	+	Ca	2
		C	-	C	3

出所：スタンダード&プアーズ社、ムーディーズ社のホームページの情報を基に、アムンディ・ジャパン株式会社が作成。
スタンダード&プアーズ社のD格は省略。

債券は上記以外にも、発行形態、償還までの期間等様々な方法で分類されます。

ファンドは、主に米国とユーロ各国の投資適格債に投資をします。
投資適格債は、ハイイールド債に比べて信用度が高い債券です。

■格付別年間平均デフォルト※率



出所：スタンダード&プアーズ社「グローバル・コーポレート・デフォルト・スタディー 2012年版」のデータを基に、アムンディ・ジャパン株式会社が作成。

※債券の元利金（利息および償還金）の支払いが当初決められた通りにできなくなることをいいます。

●上記は過去のデータやイメージであり、ファンドの将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。●上記内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。●当社が信頼性が高いとみなす情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。

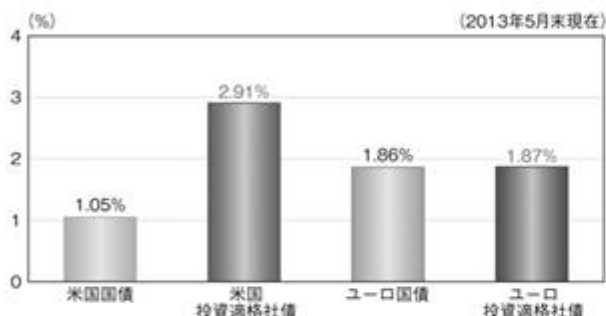
追加的記載事項

社債の特徴と魅力

◎国債より高い利回り

通常、償還までの期間が同じ債券の場合、国債よりも社債の利回りが高くなります。
ただし、信用リスクは国債よりも高くなります。

■債券利回り



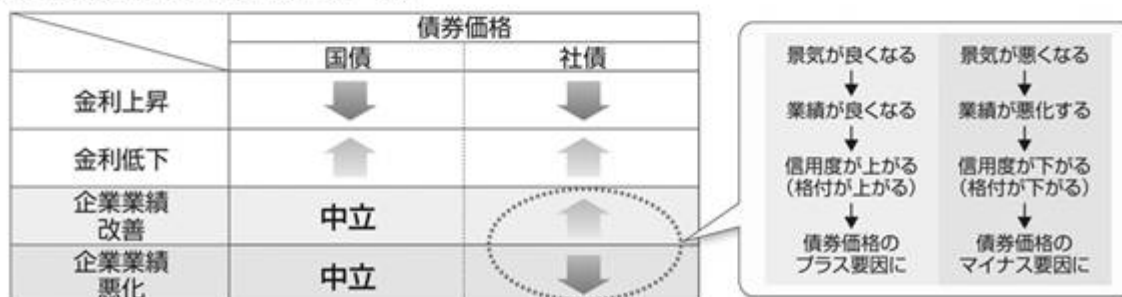
出所：バークレイズのデータを基に、アムンディ・ジャパン株式会社が作成。

*税金・費用等は考慮していません。
*米国国債にはバークレイズ米国国債インデックス、米国投資適格社債にはバークレイズ米国投資適格社債インデックス、ユーロ国債にはバークレイズ・ユーロ国債インデックス、ユーロ投資適格社債にはバークレイズ・ユーロ社債インデックス（投資適格社債のみ）を使用しています。
*各インデックスは、バークレイズ・バンク・ビーエルシーおよび関連会社（バークレイズ）が開発、算出、公表をおこなうインデックスであり、当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はバークレイズに帰属します。

◎企業業績が債券価格に影響します

景気回復時には、企業業績が改善し、社債の価格の上昇が期待できるという一面もあります。

■金利・企業業績と債券価格（イメージ）



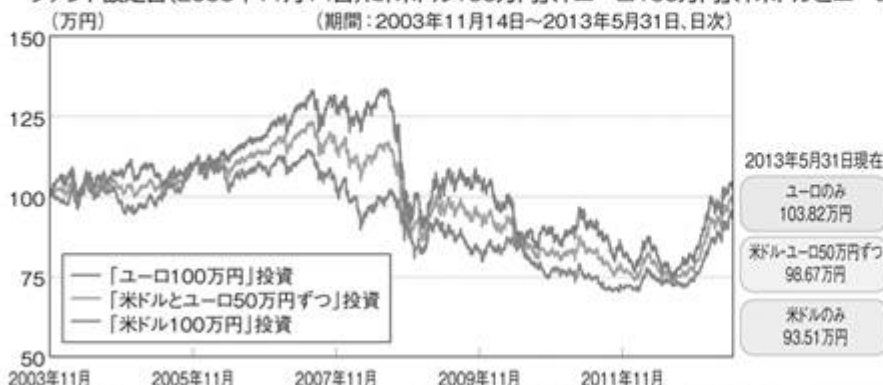
*上記表は、過去の事実から得られた一般的な傾向・特徴を示したものであり、現在および将来の債券の値動きが上記表の通りとなることを示唆または保証するものではありません。

為替の推移

◎米ドルとユーロのペアの効果

■米ドルとユーロに投資した場合

ファンド設定日(2003年11月14日)に「米ドル100万円」、「ユーロ100万円」、「米ドルとユーロ50万円ずつ」投資した場合



出所：ブルームバーグのデータを基に、アムンディ・ジャパン株式会社が作成。

*金利収入・為替手数料等は考慮していません。
*過去のデータに基づき作成したものであり、将来を示唆あるいは予測するものではありません。
*左記は一例であり、実際のポートフォリオは米ドルとユーロが均等（50%ずつ）とは限りません。
*投資対象地域・通貨を分散した場合でも、円独歩高など外国為替相場の変動等の影響により、為替変動リスクが軽減されない場合があります。

●上記は過去のデータやイメージであり、ファンドの将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。●上記内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。●当社が信頼性が高いとみなす情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。

追加的記載事項

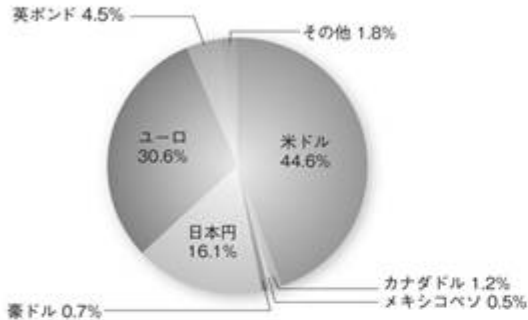
ご参考：米国債券市場、ユーロ債券市場に投資する理由

◎米国とユーロは世界の2大債券市場です

世界の債券市場において米ドル・ユーロは大きなシェアを占めています。

■世界の債券市場規模(通貨別)

シティグループ 世界BIG債券インデックス 通貨別時価総額構成比率(2013年6月)



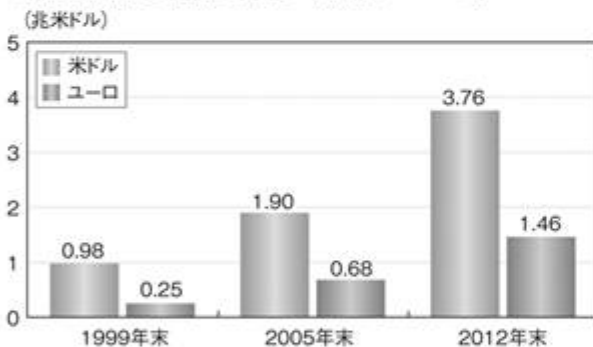
出所：シティグループ・グローバル・マーケット・インクのデータを基に、アムンディ・ジャパン株式会社が作成。

*左記数値の合計は、四捨五入の影響で100%とならない場合があります。
*左記は、通貨別のシェアを表したものであり、地域別区分を表したものではありません。

◎米ドルとユーロは世界の2大通貨です

基軸通貨である米ドルと国際金融市場での存在感が増すユーロは、世界の2大通貨です。

■外貨準備：通貨別の推移(米ドル・ユーロ)



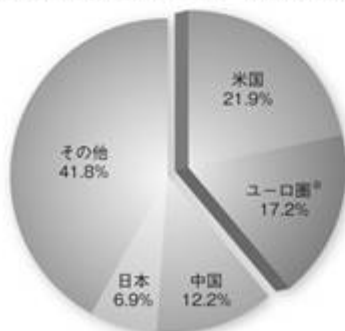
●外貨準備とは、通貨当局が為替介入に使用する資金であるほか、通貨危機などによって、他国に対して外貨建債務の返済などが困難になった場合に使用する準備資産のことを言います。

出所：IMF「Currency Composition of Official Foreign Exchange Reserves(COFER)」2013年3月のデータを基に、アムンディ・ジャパン株式会社が作成。

◎米国とユーロ圏は世界経済の中心です

世界のGDPの約40%を米国、ユーロ圏^{*}が占めています。

■主要国・地域の名目GDPシェア(2013年、予想値)



●GDP(国内総生産)とは、国内で生み出されたモノやサービスの金額を合計したものです。その国の経済の力の目安によく用いられます。

出所：IMF「World Economic Outlook April 2013」のデータを基に、アムンディ・ジャパン株式会社が作成。

*ユーロ圏はオーストリア、ベルギー、キプロス、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、アイルランド、イタリア、ルクセンブルク、マルタ、オランダ、ポルトガル、スロバキア、スロベニア、スペインの17か国。
*左記数値の合計は、四捨五入の影響で100%とならない場合があります。

●上記は過去のデータやイメージであり、ファンドの将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。●上記内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。●当社が信頼性が高いとみなす情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。

〔ファンドの商品分類〕

ファンドは、追加型投信 / 海外 / 債券に属しています。

商品分類表

属性区分表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産（収益の源泉）	投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
単位型投信	国内	株式	株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル (日本を含む)	ファミリー ファンド	あり ()
	海外	債券	債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ()	年2回 年4回 年6回 (隔月) 年12回 (毎月)	日本 北米 欧州 アジア		
追加型投信	内外	不動産投信 その他資産 () 資産複合	不動産投信 その他資産 (投資信託証券 (債券一般)) 資産複合 () 資産配分固定型 資産配分変更型	日々 その他 ()	オセアニア 中南米 アフリカ 中近東 (中東) エマージング	ファンド・オブ ・ファンズ	なし

* 属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替ヘッジに対するヘッジの有無を記載しております。

(注) ファンドが該当する商品分類・属性区分を網掛け表示しています。

商品分類の定義

・単位型・追加型

「追加型投信」...一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。

・投資対象地域

「海外」.....目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

・投資対象資産（収益の源泉）

「債券」.....目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

属性区分の定義

- ・投資対象資産
「その他資産（投資信託証券（債券一般））」…目論見書または投資信託約款において、組入れている資産が主として投資信託証券であり、実質的に債券一般を投資対象とするものをいいます。
- ・決算頻度
「年12回（毎月）」…目論見書または投資信託約款において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるものをいいます。
- ・投資対象地域
「北米」……………目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
「欧州」……………目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
- ・投資形態
「ファンド・オブ・ファンズ」…「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。
- ・為替ヘッジ
「為替ヘッジなし」…目論見書または投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。

ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用されます。このため、組入れている資産を示す属性区分上の投資対象資産（その他資産（投資信託証券（債券一般）））と収益の源泉となる資産を示す商品分類上の投資対象資産（債券）とが異なります。

*上記は、一般社団法人投資信託協会「商品分類に関する指針」に基づき記載しております。商品分類および属性区分の定義については、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp/>）をご覧ください。

（3）【ファンドの仕組み】

委託会社の概況
アムンディ概要

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 1 ファンドの性格 (3)ファンドの仕組み 委託会社の概況 アムンディ概要」につきましては次の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

アムンディは、運用資産規模で7,274億ユーロ（約83兆円、1ユーロ＝114.71円で換算、2012年12月末現在）を超え、欧州第2位、世界ではトップ・テンに入るグローバルプレーヤーの運用会社です。世界30カ国以上の主要な投資地域の中心に拠点を持ち、すべてのアセットクラスや主要通貨を網羅する広範囲な運用商品を提供しています。

アムンディは、世界中の1億人以上の個人投資家のお客様のニーズに応えるべく、貯蓄・投資手段の提供に力を注いでいます。また、機関投資家のお客様については、個別の要望やリスク許容度に応じた、革新的で良好なパフォーマンスを生み出すような商品を開発、提供しています。

インベストメント・ペンション・ヨーロッパによるトップ400社調査（2012年6月版（数値は2011年12月末現在））

2【投資方針】

(1)【投資方針】

《主要投資対象とするファンドの概要》

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 2 投資方針 (1)投資方針 《主要投資対象とするファンドの概要》」につきましては次の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

《主要投資対象とするファンドの概要》

『ドイツ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)』
(日本籍契約型投資信託)(円建)

設 定 日	: 2003年11月17日
投 資 対 象	: マザーファンドを通じて主に米国の事業債
ベンチマーク	: バークレイズ米国社債インデックス*・・・・・・・・・・・・・・・・・・ A
総 資 産	: 約91.6億円(2013年5月31日現在)
信 託 報 酬	: 年率0.5775%(税抜年率0.55%)
運 用 会 社	: ドイツ・アセット・マネジメント株式会社
投資顧問会社	: ドイツ・インベストメント・マネジメント・アメリカズ・インク

《ファンドの特徴》

- 1.主にドイツ・米国投資適格社債マザーファンドへの投資を通じて、米国の事業債に幅広く分散投資を行うことで、個別銘柄のリスクを最小限に抑えつつ、信託財産の長期的な成長とインカム・ゲインの確保を目指して運用を行います。
- 2.ポートフォリオの平均格付は、原則としてA格相当以上に維持することを目指します。
実質的に投資を行う公社債は、原則として投資適格の格付(BBB格相当以上)を付与された債券および同等の信用度をもつ債券とします。
- 3.実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

インカム・ゲインとは、公社債や預金の利息収入、株式の配当のことをいいます。

《ドイツ・アセット・マネジメント株式会社の概要》

ドイツ銀行グループのグローバルな資産運用機関であるドイツ・アセット&ウェルス・マネジメントの日本における資産運用拠点です。日本顧客向け運用資産残高は約1兆5,760億円(2013年3月末現在)あり、投資信託ビジネス・公的年金・企業年金運用の長年にわたる経験、ノウハウおよび実績を有します。

ドイツ銀行グループのアセット&ウェルス・マネジメント(AWM)部門のブランド名です。

『Amundi Funds ボンド・ユーロ・アグリゲート』

(ルクセンブルク籍会社型投資信託)(ユーロ建)

設 定 日	: 1991年1月2日
投 資 対 象	: 主にユーロ建の国債等公共債・国際機関債・社債
ベンチマーク	: バークレイズ・ユーロ総合インデックス*・・・・・・・・・・・・・・・・・・ B
総 資 産	: 約253.6百万ユーロ(約334.6億円、1ユーロ=131.96円:2013年5月31日現在)
信 託 報 酬	: 年率0.40%(毎月分配クラス)
運 用 会 社	: アムンディ

《ファンドの特徴》

- 1.ユーロ建の国債等公共債・国際機関債・社債等に投資します。
債券の発行体としてはユーロ圏の国・企業が中心となります。
- 2.高格付債を中心に投資します。
組入債券の最低格付は原則としてトリプルB格(BBB-/Baa3)とします。

『Amundi Funds ボンド・ユーロ・コーポレート』

(ルクセンブルク籍会社型投資信託)(ユーロ建)

設定日	: 1999年2月1日
投資対象	: 主にユーロ建の社債
ベンチマーク	: バークレイズ・ユーロ社債インデックス*・・・・・・・・・・[C]
総資産	: 約845.6百万ユーロ(約1,115.9億円、1ユーロ=131.96円:2013年5月31日現在)
信託報酬	: 年率0.40%(毎月分配クラス)
運用会社	: アムンディ

《ファンドの特徴》

1. 主として欧州または欧州以外の企業が発行する、欧州市場で取引されるユーロ建の固定または変動利付社債等に投資します。企業のセクターに制限はありません。
ユーロ圏の政府が発行する、または保証する債券にも投資します。
2. スタンダード&プアーズ社やムーディーズ社より投資適格(BBB-/Baa3以上)と格付されている社債に投資します。
3. インカム・ゲインとキャピタル・ゲインによるリターンを最大化させることを目指します。

アムンディ概要

アムンディは、運用資産規模で7,274億ユーロ(約83兆円、1ユーロ=114.71円で換算、2012年12月末現在)を超え、欧州第2位、世界ではトップ・テンに入るグローバルプレーヤーの運用会社です。世界30ヵ国以上の主要な投資地域の中心に拠点をもち、すべてのアセットクラスや主要通貨を網羅する広範囲な運用商品を提供しています。

インベストメント・ペンション・ヨーロッパによるトップ400社調査(2012年6月版(数値は2011年12月末現在))

《ファンドの参考指数》前記[A]、[B]および[C]のベンチマークから算出される合成指数です。

ファンドの参考指数 = [A]ベンチマーク × 50% + [B]ベンチマーク × 10% + [C]ベンチマーク × 40%

*各インデックスは、バークレイズ・バンク・ピーエルシーおよび関連会社(バークレイズ)が開発、算出、公表をおこなうインデックスであり、当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はバークレイズに帰属します。

*資金動向および市況動向等によっては、前記のような運用ができない場合があります。

(4)【分配方針】

収益分配金の支払

<訂正前>

()収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払以前のために販売会社名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし)に、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日から支払います(原則として決算日(休日の場合は翌営業日)から起算して5営業日までにお支払いを開始)。

(略)

<訂正後>

()収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払以前のために販売会社名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし)に、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日から支払います(原則として決算日(休日の場合は翌営業日)から起算して5営業日までにお支払いを開始)。

(略)

4【手数料等及び税金】

(3)【信託報酬等】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 4 手数料等及び税金 (3)信託報酬等」につきましては次の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

ファンドから支払われる費用は、後記の通りです。

時期	信託報酬		
毎日	信託報酬の総額	信託財産の純資産総額に対し、 年率0.8715%（税抜0.83%）以内を乗じて得た金額 （平成25年5月31日現在 年率0.7665%（税抜0.73%））	
	信託報酬の配分	委託会社	年率0.21%（税抜0.20%）以内 （平成25年5月31日現在 年率0.21%（税抜0.20%））
		販売会社	年率0.63%（税抜0.60%）以内 （平成25年5月31日現在 年率0.525%（税抜0.50%））
		受託会社	年率0.0315%（税抜0.03%）

委託会社は、受託会社の同意のうえ、前記に規定する率以内で信託報酬率を変更することができます。

信託報酬は、毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。

なお、ファンドは、主として投資信託証券に投資するファンド・オブ・ファンズです。

上記信託報酬の他に、投資対象となる組入投資信託証券ごとに信託報酬がかかります。

組入投資信託証券とその信託報酬は下記の通りです。

ファンドが投資対象とする投資信託証券の名称	信託報酬
ドイチェ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)	年率0.5775%（税抜0.55%）
Amundi Funds ボンド・ユーロ・アグリゲート	年率0.40%（毎月分配クラス）
Amundi Funds ボンド・ユーロ・コーポレート	年率0.40%（毎月分配クラス）

内訳 運用会社：年率0.30%、その他管理事務：年率0.10%

日本国外においてかかる費用（日本籍以外の組入投資信託証券の信託報酬）に関しては、消費税等が課されません。

<実質的な信託報酬等>

ファンドの信託報酬にファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等を加えた、受益者が負担する実質的な信託報酬は、概算値で以下の通りです。ただし、この値はあくまでも実質的な信託報酬率の目安であり、ファンドの実際の投資信託証券の組入状況によっては、実質的な信託報酬率は変動します。

受益者の方にご負担いただく 実質的な信託報酬（税込）	「アムンディ・米国・ユーロ投資適格債 ファンド」信託報酬（税込）	組入投資信託証券 信託報酬
①上限¹⁾ 年率1.449 % ②平成25年5月31日現在 年率 約1.2472 %²⁾（概算値）	①約款で定める上限 年率0.8715 % ②平成25年5月31日現在 年率0.7665 %	年率0.5775 % ～0.40 %

¹⁾ ファンドの「 約款で定める上限信託報酬（年率0.8715%（税込））」に、組入投資信託証券のうち信託報酬が最大のもの（年率0.5775%）を加算しております。

²⁾ 平成25年5月31日現在の各組入投資信託証券の組入比率を考慮して算出しております。

（４）【その他の手数料等】

信託事務等の諸費用および監査報酬

< 訂正前 >

（略）

- （ ）信託財産にかかる監査費用および当該監査費用にかかる消費税等に相当する金額は、計算期間を通じて毎日、合理的な金額を当該計算期間の日数で除して計算し、信託契約締結日から6ヵ月毎の計算期末の翌営業日までに、または信託終了のとき信託財産中から支払われます（上限85万円（1回当たり、税込）（本書作成日現在））。

< 訂正後 >

（略）

- （ ）信託財産にかかる監査費用および当該監査費用にかかる消費税等に相当する金額は、計算期間を通じて毎日、合理的な金額を当該計算期間の日数で除して計算し、信託契約締結日から6ヵ月毎の計算期末の翌営業日までに、または信託終了のとき信託財産中から支払われます。

（５）【課税上の取扱い】

< 訂正前 >

日本の居住者である受益者に対する課税上の取扱いは、平成25年1月現在の内容に基づいて記載しており、税法が改正された場合等には、以下の内容および本書における税制に関する記載内容が変更になることがあります。ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

個人の受益者に対する課税

（略）

- 2 平成25年1月1日から平成49年12月31日までの間は、復興特別所得税（基準所得税額に対して2.1%を乗じて得た金額）が加算されます。

（注）ファンドは、配当控除は適用されません。

（略）

< 訂正後 >

日本の居住者である受益者に対する課税上の取扱いは、平成25年3月末現在の内容に基づいて記載しており、税法が改正された場合等には、以下の内容および本書における税制に関する記載内容が変更になることがあります。ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です（平成26年1月1日以降）。

個人の受益者に対する課税

（略）

- 2 平成25年1月1日から平成49年12月31日までの間は、復興特別所得税（基準所得税額に対して2.1%を乗じて得た金額）が加算されます。

（注）ファンドは、配当控除は適用されません。

* 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、平成26年1月1日以降の非課税制度です。NISAをご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問合せください。

（略）

5【運用状況】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 5 運用状況」につきましては次の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

以下は平成25年5月末日現在の運用状況です。

また、投資比率は、小数点以下第3位を切捨てて表示しているため、当該比率の合計と合計欄の比率が一致しない場合があります。

(1)【投資状況】

信託財産の構成

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	8,134,849,896	48.91
投資証券	ルクセンブルク	8,239,907,266	49.54
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		255,403,879	1.53
合計（純資産総額）		16,630,161,041	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価合計比率をいいます。

その他の資産の投資状況

資産の種類	国/地域	評価額（円）	投資比率(%)
為替予約取引（売建）	日本	33,916,428	0.20

(注1) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の評価額比率をいいます。

(注2) 為替予約取引の時価については、原則としてわが国の対顧客先物売買相場の仲値で評価しております。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

順位	国/地域	種類	銘柄名	口数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	投資信託受益証券	ドイツ・米国投資適格社債ファンド（適格機関投資家専用）	11,019,845,430	0.7537	8,305,657,500	0.7382	8,134,849,896	48.91
2	ルクセンブルク	投資証券	Amundi Funds ボンド・ユーロ・コーポレート-毎月分配クラス	653,761	11,389.46	7,445,989,727	11,306.33	7,391,639,437	44.44
3	ルクセンブルク	投資証券	Amundi Funds ボンド・ユーロ・アグリゲート-毎月分配クラス	6,308.732	136,058.67	858,357,732	134,459.32	848,267,829	5.10

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価額比率をいいます。

種類別投資比率

国内/外国	種類	投資比率(%)
国内	投資信託受益証券	48.91
外国	投資証券	49.54
合計		98.46

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該種類の評価額比率をいいます。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

種類	国/ 地域	資産名	買建/売建	数量	帳簿価額 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
為替予約取引	日本	ユーロ売/円買	売建	257,040.00	33,566,854	33,916,428	0.20

(注1) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の評価額比率をいいます。

(注2) 為替予約取引の時価については、原則としてわが国の対顧客先物売買相場の仲値で評価しております。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

平成25年5月末日及び同日前1年以内における各月末ならびに下記の特定期間末の純資産の推移は次の通りです。

期間	純資産総額 (分配落)(円)	純資産総額 (分配付)(円)	1口当たり 純資産額 (分配落)(円)	1口当たり 純資産額 (分配付)(円)
第1特定期間末 (平成16年 5月12日)	12,174,568,901	12,226,562,597	1.0069	1.0112
第2特定期間末 (平成16年11月12日)	34,573,452,533	34,721,245,768	1.0059	1.0102
第3特定期間末 (平成17年 5月12日)	59,811,457,795	60,071,978,825	0.9872	0.9915
第4特定期間末 (平成17年11月14日)	87,638,913,139	88,007,386,169	1.0227	1.0270
第5特定期間末 (平成18年 5月12日)	84,586,375,087	84,963,757,287	0.9638	0.9681
第6特定期間末 (平成18年11月13日)	85,996,992,640	86,395,808,690	1.0350	1.0398
第7特定期間末 (平成19年 5月14日)	78,208,482,832	78,561,314,367	1.0640	1.0688
第8特定期間末 (平成19年11月12日)	70,113,407,816	70,451,272,849	0.9961	1.0009
第9特定期間末 (平成20年 5月12日)	62,098,043,245	62,421,598,691	0.9212	0.9260
第10特定期間末 (平成20年11月12日)	42,706,100,545	43,007,344,981	0.6805	0.6853
第11特定期間末 (平成21年 5月12日)	43,824,960,135	44,117,588,827	0.7189	0.7237
第12特定期間末 (平成21年11月12日)	45,867,646,821	46,194,175,378	0.7726	0.7781
第13特定期間末 (平成22年 5月12日)	41,063,535,503	41,374,774,688	0.7256	0.7311
第14特定期間末 (平成22年11月12日)	34,664,275,030	34,950,450,938	0.6662	0.6717
第15特定期間末 (平成23年 5月12日)	29,747,890,733	30,004,687,223	0.6371	0.6426
第16特定期間末 (平成23年11月14日)	22,905,846,484	23,126,698,720	0.5704	0.5759
第17特定期間末 (平成24年 5月14日)	19,053,157,525	19,238,079,911	0.5667	0.5722
第18特定期間末 (平成24年11月12日)	16,257,385,977	16,419,139,971	0.5528	0.5583
第19特定期間末 (平成25年 5月13日)	17,228,457,804	17,365,765,816	0.6901	0.6956
平成24年 5月末日	18,049,956,656	-	0.5457	-
6月末日	17,617,866,573	-	0.5455	-
7月末日	16,997,170,521	-	0.5382	-
8月末日	16,858,767,545	-	0.5456	-
9月末日	16,512,830,488	-	0.5461	-
10月末日	16,625,214,030	-	0.5617	-
11月末日	16,646,671,704	-	0.5762	-

12月末日	17,157,438,999	-	0.6100	-
平成25年 1月末日	17,521,466,081	-	0.6390	-
2月末日	16,994,516,892	-	0.6377	-
3月末日	16,399,313,717	-	0.6370	-
4月末日	16,843,341,327	-	0.6718	-
5月末日	16,630,161,041	-	0.6797	-

（注）純資産総額（分配付）及び1口当たり純資産額（分配付）は、各特定期間の最終計算期間に係る収益分配金のみを含んでおります。

【分配の推移】

期間		1口当たり分配金（円）
第1特定期間	自 平成15年11月14日 至 平成16年 5月12日	0.0215
第2特定期間	自 平成16年 5月13日 至 平成16年11月12日	0.0258
第3特定期間	自 平成16年11月13日 至 平成17年 5月12日	0.0258
第4特定期間	自 平成17年 5月13日 至 平成17年11月14日	0.0258
第5特定期間	自 平成17年11月15日 至 平成18年 5月12日	0.0258
第6特定期間	自 平成18年 5月13日 至 平成18年11月13日	0.0263
第7特定期間	自 平成18年11月14日 至 平成19年 5月14日	0.0288
第8特定期間	自 平成19年 5月15日 至 平成19年11月12日	0.0288
第9特定期間	自 平成19年11月13日 至 平成20年 5月12日	0.0288
第10特定期間	自 平成20年 5月13日 至 平成20年11月12日	0.0288
第11特定期間	自 平成20年11月13日 至 平成21年 5月12日	0.0288
第12特定期間	自 平成21年 5月13日 至 平成21年11月12日	0.0302

第13特定期間	自 平成21年11月13日 至 平成22年 5月12日	0.0330
第14特定期間	自 平成22年 5月13日 至 平成22年11月12日	0.0330
第15特定期間	自 平成22年11月13日 至 平成23年 5月12日	0.0330
第16特定期間	自 平成23年 5月13日 至 平成23年11月14日	0.0330
第17特定期間	自 平成23年11月15日 至 平成24年 5月14日	0.0330
第18特定期間	自 平成24年 5月15日 至 平成24年11月12日	0.0330
第19特定期間	自 平成24年11月13日 至 平成25年 5月13日	0.0330

（注）1口当たり分配金は、各特定期間中の分配金単価の合計を表示しております。

【収益率の推移】

期間		収益率(%)
第1特定期間	自 平成15年11月14日 至 平成16年 5月12日	2.8
第2特定期間	自 平成16年 5月13日 至 平成16年11月12日	2.5
第3特定期間	自 平成16年11月13日 至 平成17年 5月12日	0.7
第4特定期間	自 平成17年 5月13日 至 平成17年11月14日	6.2
第5特定期間	自 平成17年11月15日 至 平成18年 5月12日	3.2
第6特定期間	自 平成18年 5月13日 至 平成18年11月13日	10.1
第7特定期間	自 平成18年11月14日 至 平成19年 5月14日	5.6
第8特定期間	自 平成19年 5月15日 至 平成19年11月12日	3.7

第9特定期間	自 平成19年11月13日 至 平成20年 5月12日	4.6
第10特定期間	自 平成20年 5月13日 至 平成20年11月12日	23.0
第11特定期間	自 平成20年11月13日 至 平成21年 5月12日	9.9
第12特定期間	自 平成21年 5月13日 至 平成21年11月12日	11.7
第13特定期間	自 平成21年11月13日 至 平成22年 5月12日	1.8
第14特定期間	自 平成22年 5月13日 至 平成22年11月12日	3.6
第15特定期間	自 平成22年11月13日 至 平成23年 5月12日	0.6
第16特定期間	自 平成23年 5月13日 至 平成23年11月14日	5.3
第17特定期間	自 平成23年11月15日 至 平成24年 5月14日	5.1
第18特定期間	自 平成24年 5月15日 至 平成24年11月12日	3.4
第19特定期間	自 平成24年11月13日 至 平成25年 5月13日	30.8

(注1)収益率は、各特定期間中の分配金単価の合計を加算して算出しております。

(注2)収益率は以下の計算により算出しております。

特定期間末の基準価額（当該特定期間中の分配金累計額を加算した額）から当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額（分配落ちの額、以下「前特定期間末基準価額」）を控除した額を前特定期間末基準価額で除して得た数値に100を乗じて得た数値です。

ただし、第1特定期間については「前特定期間末基準価額」に代えて設定時の基準価額（10,000円）を用いております。

なお、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位まで表示しております。

(4) 【設定及び解約の実績】

期間		設定口数	解約口数	発行済口数
第1特定期間	自 平成15年11月14日 至 平成16年 5月12日	12,690,117,757	598,560,507	12,091,557,250
第2特定期間	自 平成16年 5月13日 至 平成16年11月12日	23,424,348,960	1,145,386,296	34,370,519,914
第3特定期間	自 平成16年11月13日 至 平成17年 5月12日	27,865,825,007	1,650,058,748	60,586,286,173
第4特定期間	自 平成17年 5月13日 至 平成17年11月14日	28,707,056,711	3,601,940,445	85,691,402,439
第5特定期間	自 平成17年11月15日 至 平成18年 5月12日	9,067,180,953	6,995,281,058	87,763,302,334
第6特定期間	自 平成18年 5月13日 至 平成18年11月13日	4,410,453,742	9,087,078,883	83,086,677,193
第7特定期間	自 平成18年11月14日 至 平成19年 5月14日	1,643,022,626	11,223,129,853	73,506,569,966
第8特定期間	自 平成19年 5月15日 至 平成19年11月12日	1,870,613,541	4,988,634,760	70,388,548,747
第9特定期間	自 平成19年11月13日 至 平成20年 5月12日	860,145,753	3,841,309,908	67,407,384,592
第10特定期間	自 平成20年 5月13日 至 平成20年11月12日	410,826,769	5,058,953,851	62,759,257,510
第11特定期間	自 平成20年11月13日 至 平成21年 5月12日	436,367,503	2,231,314,084	60,964,310,929
第12特定期間	自 平成21年 5月13日 至 平成21年11月12日	762,959,580	2,358,441,782	59,368,828,727
第13特定期間	自 平成21年11月13日 至 平成22年 5月12日	819,281,911	3,599,167,866	56,588,942,772

第14特定期間	自 平成22年 5月13 日 至 平成22年11月12 日	361,220,329	4,918,179,817	52,031,983,284
第15特定期間	自 平成22年11月13 日 至 平成23年 5月12 日	295,808,827	5,637,521,071	46,690,271,040
第16特定期間	自 平成23年 5月13 日 至 平成23年11月14 日	341,984,596	6,877,303,631	40,154,952,005
第17特定期間	自 平成23年11月15 日 至 平成24年 5月14 日	216,942,750	6,749,642,720	33,622,252,035
第18特定期間	自 平成24年 5月15 日 至 平成24年11月12 日	196,900,651	4,409,335,516	29,409,817,170
第19特定期間	自 平成24年11月13 日 至 平成25年 5月13 日	283,781,333	4,728,505,375	24,965,093,128

(注1) 全て本邦内におけるものです。

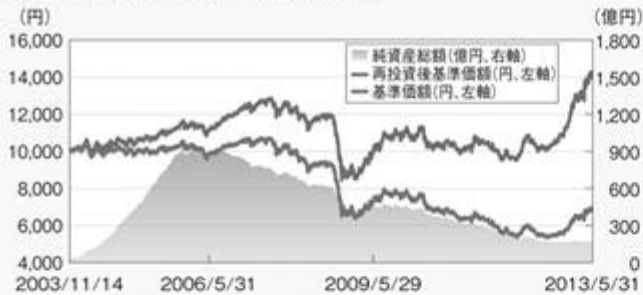
(注2) 第1特定期間の設定口数には、当初募集期間の設定口数を含みます。

< 参考情報 >

運用実績

2013年5月31日現在

◎基準価額・純資産の推移



*再投資後基準価額は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。
*基準価額の計算において信託報酬は控除しています。

基準価額	6,797円	純資産総額	166.3億円
------	--------	-------	---------

◎分配の推移

決算日	分配金
109期(2013年1月15日)	55円
110期(2013年2月12日)	55円
111期(2013年3月12日)	55円
112期(2013年4月12日)	55円
113期(2013年5月13日)	55円
直近1年間累計	660円
設定来累計	5,562円

*分配金は1万口当たり・税引前です。
*直近5期分を表示しています。

◎主要な資産の状況

◆資産配分

内訳	比率(%)
ドイツ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)	48.92
Amundi Funds ボンド・ユーロ・アグリゲート	5.10
Amundi Funds ボンド・ユーロ・コーポレート	44.45
現金等	1.54
合計	100.00

*比率は純資産総額に対する割合です。
*四捨五入の関係で合計が100.00%とならない場合があります。
*現金等には未払諸費用等を含みます。

◆組入ファンドの上位5銘柄

ドイツ・米国投資適格社債マザーファンド ^{*1}				Amundi Funds ボンド・ユーロ・アグリゲート			Amundi Funds ボンド・ユーロ・コーポレート		
銘柄	クーポン(%)	比率(%)	比率(%)	銘柄	クーポン(%)	比率(%) ^{*2}	銘柄	クーポン(%)	比率(%) ^{*2}
1 GEキャピタル 6.9% 09/15/15	6.900	4.67	1 イタリア国債	4.750	5.90	1 ハチソン・ワンボア	3.750	1.33	
2 バンクオブアメリカ 7.8% 09/15/16	7.800	3.80	2 スペイン国債	4.000	5.05	2 シティグループ	5.000	1.23	
3 ノーバンク・バンク・オブ・アメリカ 7.7% 05/15/17	7.700	3.39	3 ベルギー国債	4.250	5.01	3 フィリップ・モリス・インターナショナル	1.750	1.11	
4 ドラッグ・ストア・グループ 7.625% 01/15/38	7.625	3.14	4 イタリア国債	5.500	3.53	4 韓国輸出入銀行	2.000	1.10	
5 サウスウェスタンベル 7% 07/01/15	7.000	3.09	5 スペイン国債	3.750	3.31	5 オリジン・エナジー	2.500	1.09	

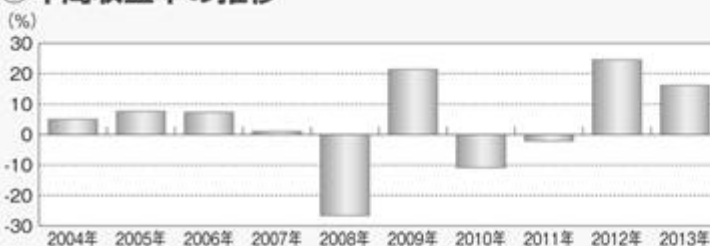
*1 ドイツ・米国投資適格社債マザーファンド(適格機関投資家専用)のマザーファンドの組入銘柄とマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
*2 比率は、各マスターファンドの純資産総額に対する割合です。

◆ファンドの概要

平均格付	BBB
平均最終利回り(%)	2.49
平均直接利回り(%)	4.69
修正デュレーション(年)	4.99

*ファンドが投資している投資信託証券の2013年5月31日現在のデータに基づいています。
*平均格付とは、基準日時時点でファンドが実質的に保有している有価証券の信用格付を加重平均したものであり、ファンドの信用格付ではありません。

◎年間収益率の推移



*年間収益率は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。
*ファンドにはベンチマークはありません。
*2013年は年初から5月31日までの騰落率を表示しています。

◎期間別騰落率

期間	騰落率(%)
1ヵ月	1.98
3ヵ月	9.22
6ヵ月	24.13
1年	39.21
3年	34.44
設定来	39.69

*騰落率は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。ファンドの騰落率であり、実際の投資家利回りとは異なります。

※上記の運用実績は、過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
※運用実績等については、表紙に記載の委託会社ホームページにおいて閲覧することができます。

第2【管理及び運営】

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

() 基準価額の算定

<訂正前>

(略)

ファンドの主な投資対象の評価方法は以下の通りです。

対象	評価方法
外貨建資産	原則として、基準価額計算日の対顧客電信売買相場の仲値で円換算を行います。
予約為替	原則として、基準価額計算日の対顧客先物売買相場の仲値で評価します。
投資信託受益証券	原則として、投資信託受益証券の基準価額で評価します。
投資証券	原則として、投資証券の基準価額とします。

(略)

<訂正後>

(略)

ファンドの主な投資対象の評価方法は以下の通りです。

対象	評価方法
外貨建資産	原則として、基準価額計算日の対顧客電信売買相場の仲値で円換算を行います。
予約為替	原則として、基準価額計算日の対顧客先物売買相場の仲値で評価します。
投資信託受益証券	原則として、投資信託受益証券の基準価額で評価します。
投資証券	原則として、投資証券の基準価額で評価します。

(略)

第3【ファンドの経理状況】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況」につきましては次の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
3. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第19特定期間(平成24年11月13日から平成25年5月13日まで)の財務諸表について、あらた監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

アムンディ・米国・ユーロ投資適格債ファンド

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第18特定期間末 (平成24年11月12日)	第19特定期間末 (平成25年5月13日)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	438,854,045	479,931,194
投資信託受益証券	8,010,878,364	8,416,248,192
投資証券	8,002,164,302	8,481,361,425
未収利息	601	394
流動資産合計	16,451,897,312	17,377,541,205
資産合計	16,451,897,312	17,377,541,205
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	161,753,994	137,308,012
未払解約金	21,059,964	-
未払受託者報酬	445,783	455,152
未払委託者報酬	10,401,594	10,620,237
その他未払費用	850,000	700,000
流動負債合計	194,511,335	149,083,401
負債合計	194,511,335	149,083,401
純資産の部		
元本等		
元本	29,409,817,170	24,965,093,128
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	13,152,431,193	7,736,635,324
（分配準備積立金）	1,084,677,458	678,443,232
元本等合計	16,257,385,977	17,228,457,804
純資産合計	16,257,385,977	17,228,457,804
負債純資産合計	16,451,897,312	17,377,541,205

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第18特定期間 自 平成24年 5月15日 至 平成24年11月12日	第19特定期間 自 平成24年11月13日 至 平成25年 5月13日
営業収益		
受取配当金	692,710,763	646,539,687
受取利息	73,440	68,494
有価証券売買等損益	139,903,428	1,826,485,837
為替差損益	218,677,576	2,231,362,090
営業収益合計	614,010,055	4,704,456,108
営業費用		
受託者報酬	2,708,593	2,675,375
委託者報酬	63,200,459	62,425,370
その他費用	850,000	700,000
営業費用合計	66,759,052	65,800,745
営業利益又は営業損失（ ）	547,251,003	4,638,655,363
経常利益又は経常損失（ ）	547,251,003	4,638,655,363
当期純利益又は当期純損失（ ）	547,251,003	4,638,655,363
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	9,200,734	27,593,968
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	14,569,094,510	13,152,431,193
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,991,841,287	1,792,084,585
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,991,841,287	1,792,084,585
剰余金減少額又は欠損金増加額	89,066,134	105,399,876
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	89,066,134	105,399,876
分配金	1,024,162,105	881,950,235
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	13,152,431,193	7,736,635,324

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) 投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。</p> <p>(2) 投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。</p>
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として特定期間末日の対顧客先物売買相場において為替予約の受渡日の仲値が発表されている場合には当該仲値、受渡日の仲値が発表されていない場合には発表されている受渡日に最も近い前後二つの日の仲値をもとに計算しております。</p>
3. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金 原則として、収益分配金落ち日において、当該収益分配金金額を計上しております。</p>
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>(1) 外貨建取引等の処理基準 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条及び第61条に基づいております。</p> <p>(2) 特定期間の取扱い ファンドの特定期間は当期末が休日のため、平成24年11月13日から平成25年5月13日までとなっております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	第18特定期間末 (平成24年11月12日)	第19特定期間末 (平成25年 5月13日)
1. 期首元本額	33,622,252,035円	29,409,817,170円
期中追加設定元本額	196,900,651円	283,781,333円
期中一部解約元本額	4,409,335,516円	4,728,505,375円
2. 特定期間末日における受益権の総数	29,409,817,170口	24,965,093,128口
3. 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は13,152,431,193円であります。	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は7,736,635,324円であります。

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

第18特定期間		第19特定期間	
自 平成24年 5月15日		自 平成24年11月13日	
至 平成24年11月12日		至 平成25年 5月13日	
分配金の計算過程 （平成24年5月15日から平成24年6月12日までの計算期間） 計算期間末における分配対象収益額1,716,852,777円 （1万口当たり523円）のうち180,202,566円（1万口当たり55円）を分配金額としております。		分配金の計算過程 （平成24年11月13日から平成24年12月12日までの計算期間） 計算期間末における分配対象収益額1,161,029,812円 （1万口当たり406円）のうち157,133,634円（1万口当たり55円）を分配金額としております。	
A	費用控除後の配当等収益額 111,392,779円	A	費用控除後の配当等収益額 107,324,296円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 0円	B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 0円
C	収益調整金額 52,355,778円	C	収益調整金額 1,108,465円
D	分配準備積立金額 1,553,104,220円	D	分配準備積立金額 1,052,597,051円
E	当ファンドの分配対象収益額（A+B+C+D） 1,716,852,777円	E	当ファンドの分配対象収益額（A+B+C+D） 1,161,029,812円
F	当ファンドの期末残存受益権口数 32,764,102,972口	F	当ファンドの期末残存受益権口数 28,569,751,690口
G	1万口当たり分配対象収益額（E / F × 10,000） 523円	G	1万口当たり分配対象収益額（E / F × 10,000） 406円
H	1万口当たり分配金額 55円	H	1万口当たり分配金額 55円
I	分配金額（F × H / 10,000） 180,202,566円	I	分配金額（F × H / 10,000） 157,133,634円
（平成24年6月13日から平成24年7月12日までの計算期間） 計算期間末における分配対象収益額1,608,133,850円 （1万口当たり503円）のうち175,679,545円（1万口当たり55円）を分配金額としております。		（平成24年12月13日から平成25年1月15日までの計算期間） 計算期間末における分配対象収益額1,088,490,689円 （1万口当たり390円）のうち153,173,940円（1万口当たり55円）を分配金額としております。	
A	費用控除後の配当等収益額 110,052,499円	A	費用控除後の配当等収益額 109,868,261円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 0円	B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 0円
C	収益調整金額 52,499,370円	C	収益調整金額 3,378,462円
D	分配準備積立金額 1,445,581,981円	D	分配準備積立金額 975,243,966円
E	当ファンドの分配対象収益額（A+B+C+D） 1,608,133,850円	E	当ファンドの分配対象収益額（A+B+C+D） 1,088,490,689円
F	当ファンドの期末残存受益権口数 31,941,735,554口	F	当ファンドの期末残存受益権口数 27,849,807,375口
G	1万口当たり分配対象収益額（E / F × 10,000） 503円	G	1万口当たり分配対象収益額（E / F × 10,000） 390円
H	1万口当たり分配金額 55円	H	1万口当たり分配金額 55円
I	分配金額（F × H / 10,000） 175,679,545円	I	分配金額（F × H / 10,000） 153,173,940円
（平成24年7月13日から平成24年8月13日までの計算期間） 計算期間末における分配対象収益額1,510,557,436円 （1万口当たり481円）のうち172,593,633円（1万口当たり55円）を分配金額としております。		（平成25年1月16日から平成25年2月12日までの計算期間） 計算期間末における分配対象収益額1,022,819,078円 （1万口当たり375円）のうち149,677,284円（1万口当たり55円）を分配金額としております。	
A	費用控除後の配当等収益額 103,265,179円	A	費用控除後の配当等収益額 108,813,621円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 0円	B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 0円
C	収益調整金額 52,980,523円	C	収益調整金額 5,519,327円
D	分配準備積立金額 1,354,311,734円	D	分配準備積立金額 908,486,130円
E	当ファンドの分配対象収益額（A+B+C+D） 1,510,557,436円	E	当ファンドの分配対象収益額（A+B+C+D） 1,022,819,078円
F	当ファンドの期末残存受益権口数 31,380,660,654口	F	当ファンドの期末残存受益権口数 27,214,051,667口
G	1万口当たり分配対象収益額（E / F × 10,000） 481円	G	1万口当たり分配対象収益額（E / F × 10,000） 375円
H	1万口当たり分配金額 55円	H	1万口当たり分配金額 55円
I	分配金額（F × H / 10,000） 172,593,633円	I	分配金額（F × H / 10,000） 149,677,284円
（平成24年8月14日から平成24年9月12日までの計算期間） 計算期間末における分配対象収益額1,417,300,617円 （1万口当たり462円）のうち168,611,850円（1万口当たり55円）を分配金額としております。		（平成25年2月13日から平成25年3月12日までの計算期間） 計算期間末における分配対象収益額946,941,833円 （1万口当たり359円）のうち144,799,376円（1万口当たり55円）を分配金額としております。	
A	費用控除後の配当等収益額 110,203,262円	A	費用控除後の配当等収益額 102,221,036円

B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円	B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円
C	収益調整金額	1,359,343円	C	収益調整金額	6,658,929円
D	分配準備積立金額	1,305,738,012円	D	分配準備積立金額	838,061,868円
E	当ファンドの分配対象収益額(A+B+C+D)	1,417,300,617円	E	当ファンドの分配対象収益額(A+B+C+D)	946,941,833円
F	当ファンドの期末残存受益権口数	30,656,700,024口	F	当ファンドの期末残存受益権口数	26,327,159,304口
G	1万口当たり分配対象収益額(E/F×10,000)	462円	G	1万口当たり分配対象収益額(E/F×10,000)	359円
H	1万口当たり分配金額	55円	H	1万口当たり分配金額	55円
I	分配金額(F×H/10,000)	168,611,850円	I	分配金額(F×H/10,000)	144,799,376円
	(平成24年9月13日から平成24年10月12日までの計算期間)			(平成25年3月13日から平成25年4月12日までの計算期間)	
	計算期間末における分配対象収益額1,333,251,901円(1万口当たり443円)のうち165,320,517円(1万口当たり55円)を分配金額としております。			計算期間末における分配対象収益額877,555,770円(1万口当たり345円)のうち139,857,989円(1万口当たり55円)を分配金額としております。	
A	費用控除後の配当等収益額	108,937,129円	A	費用控除後の配当等収益額	102,777,274円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円	B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円
C	収益調整金額	2,672,715円	C	収益調整金額	7,304,563円
D	分配準備積立金額	1,221,642,057円	D	分配準備積立金額	767,473,933円
E	当ファンドの分配対象収益額(A+B+C+D)	1,333,251,901円	E	当ファンドの分配対象収益額(A+B+C+D)	877,555,770円
F	当ファンドの期末残存受益権口数	30,058,275,886口	F	当ファンドの期末残存受益権口数	25,428,725,288口
G	1万口当たり分配対象収益額(E/F×10,000)	443円	G	1万口当たり分配対象収益額(E/F×10,000)	345円
H	1万口当たり分配金額	55円	H	1万口当たり分配金額	55円
I	分配金額(F×H/10,000)	165,320,517円	I	分配金額(F×H/10,000)	139,857,989円
	(平成24年10月13日から平成24年11月12日までの計算期間)			(平成25年4月13日から平成25年5月13日までの計算期間)	
	計算期間末における分配対象収益額1,246,440,898円(1万口当たり423円)のうち161,753,994円(1万口当たり55円)を分配金額としております。			計算期間末における分配対象収益額824,419,662円(1万口当たり330円)のうち137,308,012円(1万口当たり55円)を分配金額としております。	
A	費用控除後の配当等収益額	103,705,960円	A	費用控除後の配当等収益額	100,122,517円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円	B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円
C	収益調整金額	3,862,132円	C	収益調整金額	8,668,418円
D	分配準備積立金額	1,138,872,806円	D	分配準備積立金額	715,628,727円
E	当ファンドの分配対象収益額(A+B+C+D)	1,246,440,898円	E	当ファンドの分配対象収益額(A+B+C+D)	824,419,662円
F	当ファンドの期末残存受益権口数	29,409,817,170口	F	当ファンドの期末残存受益権口数	24,965,093,128口
G	1万口当たり分配対象収益額(E/F×10,000)	423円	G	1万口当たり分配対象収益額(E/F×10,000)	330円
H	1万口当たり分配金額	55円	H	1万口当たり分配金額	55円
I	分配金額(F×H/10,000)	161,753,994円	I	分配金額(F×H/10,000)	137,308,012円

(金融商品に関する注記)

.金融商品の状況に関する事項

項目	第18特定期間	第19特定期間
	自平成24年5月15日 至平成24年11月12日	自平成24年11月13日 至平成25年5月13日
1. 金融商品に対する取組方針	信託約款に規定する「運用の基本方針」の定めに従い、有価証券及びデリバティブ取引等の金融商品を投資対象として運用を行っております。	同左

<p>2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク</p>	<p>保有する主な金融商品は、有価証券であり、その内容を貸借対照表、注記表及び附属明細表に記載しております。これらは売買目的で保有しております。</p> <p>当該金融商品には、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等があります。</p> <p>当ファンドの利用しているデリバティブ取引は、為替予約取引であり外貨建資産の購入代金、売却代金、配当金等の受取または支払にかかる円貨額を確定させるために行っております。</p> <p>一般的な為替予約取引に係る主要なリスクとして、為替相場の変動による価格変動リスク及び取引相手の信用状況の変化により損失が発生する信用リスクがあります。当ファンドは、為替予約取引をスポットに限定しているため、価格変動リスクはきわめて小さいと認識しております。また、為替予約の相手先は社内ルールに従った金融機関に限定しているため、相手方の契約不履行に係る信用リスクはほとんどないと判断しております。</p>	同左
<p>3. 金融商品に係るリスク管理体制</p>	<p>リスクマネジメント部が、当ファンドの主要投資対象である投資信託受益証券及び投資証券のパフォーマンス状況及びマーケット動向等のモニタリングを行っております。また、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等の運用リスクを分析し、定期的にリスク委員会に報告しております。</p> <p>デリバティブ取引については、組織的な管理体制により、日々ポジション並びに評価金額及び評価損益の管理を行っております。</p>	同左

・金融商品の時価等に関する事項

項目	第18特定期間末 (平成24年11月12日)	第19特定期間末 (平成25年 5月13日)
<p>1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額</p>	<p>貸借対照表計上額は、期末の時価で計上しているためその差額はありません。</p>	同左

2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	<p>(1) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p> <p>(2) 有価証券 時価の算定方法は、「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。また、有価証券に関する注記事項については、「(有価証券に関する注記)」に記載しております。</p> <p>(3) デリバティブ取引 該当事項はありません。</p>	<p>(1) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左</p> <p>(2) 有価証券 同左</p> <p>(3) デリバティブ取引 同左</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	第18特定期間末 (平成24年11月12日)	第19特定期間末 (平成25年 5月13日)
	最終計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)	最終計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)
投資信託受益証券	105,649,566	150,748,773
投資証券	49,500,181	83,120,033
合計	155,149,747	233,868,806

（デリバティブ取引等に関する注記）

第18特定期間末（平成24年11月12日）

該当事項はありません。

第19特定期間末（平成25年5月13日）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第18特定期間（自 平成24年5月15日 至 平成24年11月12日）

該当事項はありません。

第19特定期間（自 平成24年11月13日 至 平成25年5月13日）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

	第18特定期間末 （平成24年11月12日）	第19特定期間末 （平成25年 5月13日）
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	0.5528円 （5,528円）	0.6901円 （6,901円）

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
投資信託 受益証券	日本円	ドイチェ・米国投資適格社債ファン ド（適格機関投資家専用）	11,166,575,816	8,416,248,192	
			11,166,575,816	8,416,248,192	
	小計	銘柄数 組入時価比率	1 48.9%	100.0%	
	投資信託受益証券 合計			8,416,248,192	
投資証券	ユーロ	Amundi Funds ボンド・ユーロ・ア グリゲート-毎月分配クラス	6,608.732	6,813,999.21	
		Amundi Funds ボンド・ユーロ・ コーポレート-毎月分配クラス	664,761	57,375,521.91	
			671,369.732	64,189,521.12	
	小計	銘柄数 組入時価比率	2 49.2%	(8,481,361,425) 100.0%	
	投資証券 合計			8,481,361,425 (8,481,361,425)	
合計				16,897,609,617 (8,481,361,425)	

（有価証券明細表注記）

- 1．通貨種類毎の小計欄の()内は、邦貨換算額であります。
- 2．合計欄における()内の金額は、外貨建有価証券の邦貨換算額であり、内数で表示しております。
- 3．組入時価比率は、左より組入時価の純資産に対する比率及び各小計欄の各合計金額に対する比率であります。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表
該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

平成25年5月末日現在

資産総額	16,693,250,844円
負債総額	63,089,803円
純資産総額(-)	16,630,161,041円
発行済口数	24,466,290,055口
1口当たり純資産額(/)	0.6797円
(1万口当たり純資産額)	(6,797円)

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

2【事業の内容及び営業の概況】

営業の概況

原届出書の「第三部 委託会社等の情報 第1 委託会社等の概況 2 事業の内容及び営業の概況 営業の概況」につきましては次の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

平成25年5月末日現在、委託会社の運用する投資信託の本数、純資産額の合計額は以下の通りです。

種 類	本 数	純 資 産 (百 万 円)
単位型株式投資信託	42	102,289
追加型株式投資信託	146	1,432,684
追加型公社債投資信託	1	18,408
合計	189	1,553,381

3【委託会社等の経理状況】

原届出書の「第三部 委託会社等の情報 第1 委託会社等の概況 3 委託会社等の経理状況」につきましては次の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

(1) 委託会社であるアムンディ・ジャパン株式会社(以下「当社」という)の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。

(2) 財務諸表の金額については、千円未満の端数を四捨五入して記載しております。

(3) 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第32期事業年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)の財務諸表について、あらた監査法人による監査を受けております。

(1)【貸借対照表】

(単位：千円)

	第31期 (平成24年3月31日)		第32期 (平成25年3月31日)	
資産の部				
流動資産				
現金・預金		2,650,700		2,153,697
有価証券		1,302,738		1,175,027
前払費用		276,348		179,108
未収還付法人税等		6,975		6,458
未収入金		7,883		6,527
未収委託者報酬	*1	1,049,520	*1	1,127,856
未収運用受託報酬	*1	598,799	*1	718,958
未収投資助言報酬	*1	39,549	*1	15,982
未収収益	*1	113,024	*1	143,682
繰延税金資産		172,456		98,508
立替金	*1	39,301	*1	20,820
その他		39,258		125
流動資産合計		6,296,549		5,646,747
固定資産				
有形固定資産				
建物(純額)	*2	137,459	*2	119,322
器具備品(純額)	*2	131,839	*2	108,135
有形固定資産合計		269,298		227,457
無形固定資産				
ソフトウェア		12,446		11,850
電話加入権		934		934
無形固定資産合計		13,380		12,784
投資その他の資産				
投資有価証券		1,919,090		2,278,289
関係会社株式		86,168		86,168
長期未収入金		6,000		5,000
長期差入保証金		191,981		180,700
ゴルフ会員権		60		60
貸倒引当金		6,000		5,000
投資その他の資産合計		2,197,298		2,545,216
固定資産合計		2,479,976		2,785,457
資産合計		8,776,525		8,432,205

(単位：千円)

	第31期 (平成24年3月31日)	第32期 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
リース債務	1,186	819
預り金	277,120	319,438
未払金	644,571	700,436
未払償還金	8,124	4,966
未払手数料	483,904	573,177
その他未払金	*1 152,543	*1 122,293
未払費用	242,443	188,325
未払法人税等	13,069	14,323
未払消費税等	11,112	31,723
前受収益	615,072	217,643
賞与引当金	91,301	97,354
役員賞与引当金	15,388	15,992
資産除去債務	12,210	-
流動負債合計	1,923,473	1,586,053
固定負債		
リース債務	816	-
繰延税金負債	10,581	16,243
退職給付引当金	61,157	58,759
賞与引当金	9,536	5,667
役員賞与引当金	8,673	9,721
資産除去債務	50,003	50,917
固定負債合計	140,765	141,307
負債合計	2,064,237	1,727,359
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,200,000	1,200,000
資本剰余金		
資本準備金	1,076,268	1,076,268
その他資本剰余金	1,342,567	1,342,567
資本剰余金合計	2,418,835	2,418,835
利益剰余金		
利益準備金	110,093	110,093
その他利益剰余金	2,991,801	2,963,877
別途積立金	1,600,000	1,600,000
繰越利益剰余金	1,391,801	1,363,877
利益剰余金合計	3,101,893	3,073,969
株主資本合計	6,720,728	6,692,804
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,441	12,041
評価・換算差額等合計	8,441	12,041
純資産合計	6,712,288	6,704,845
負債純資産合計	8,776,525	8,432,205

(2)【損益計算書】

(単位：千円)

	第31期		第32期	
	(自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日)		(自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日)	
営業収益				
委託者報酬		6,808,292		6,769,804
運用受託報酬		1,786,519		1,917,494
投資助言報酬		32,750		39,575
その他営業収益		532,630		468,026
営業収益合計		9,160,192		9,194,899
営業費用				
支払手数料		3,281,468		3,547,890
広告宣伝費		15,452		67,487
調査費		1,340,502		1,158,768
調査費		608,715		568,720
委託調査費		731,787		590,048
委託計算費		22,888		19,254
営業雑経費		257,680		229,276
通信費		64,101		49,209
印刷費		176,184		163,516
協会費		17,395		16,552
営業費用合計		4,917,990		5,022,676
一般管理費				
給料		2,819,805		2,585,017
役員報酬		219,810		118,614
給料・手当		2,284,355		2,149,555
賞与		249,749		276,105
役員賞与		65,891		40,743
交際費		13,982		11,803
旅費交通費		83,998		46,930
租税公課		34,892		39,746
不動産賃借料		198,292		173,282
賞与引当金繰入		83,681		93,485
役員賞与引当金繰入		10,069		17,640
退職給付費用		249,207		222,723
固定資産減価償却費		51,786		45,404
福利厚生費		431,451		421,902
諸経費		186,838		184,638
一般管理費合計		4,164,002		3,842,570
営業利益		78,200		329,653
営業外収益				
有価証券利息		31,032		-
受取利息		25		14
為替差益		-		21,424
有価証券売却益		7,629		-
雑収入		8,642		12,664
営業外収益合計		47,327		34,102
営業外費用				
為替差損		22,423		-
有価証券利息		-		14,065
雑損失		48		231
営業外費用合計		22,471		14,296

経常利益		103,056		349,460
特別利益				
清算配当金	*1*2	73,294	*1*2	-
特別利益合計		73,294		-
特別損失				
減損損失	*3	8,822	*3	-
固定資産除却損	*4	5,437	*4	6,432
特別損失合計		14,259		6,432
税引前当期純利益		162,092		343,028
法人税、住民税及び事業税		3,800		3,800
法人税等調整額		6,799		67,152
法人税等合計		10,599		70,952
当期純利益		151,493		272,076

(3)【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	第31期		第32期	
	(自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日)		(自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日)	
株主資本				
資本金				
当期首残高		1,200,000		1,200,000
当期変動額				
当期変動額合計		-		-
当期末残高		1,200,000		1,200,000
資本剰余金				
資本準備金				
当期首残高		1,076,268		1,076,268
当期変動額				
当期変動額合計		-		-
当期末残高		1,076,268		1,076,268
その他資本剰余金				
当期首残高		1,342,567		1,342,567
当期変動額				
当期変動額合計		-		-
当期末残高		1,342,567		1,342,567
資本剰余金合計				
当期首残高		2,418,835		2,418,835
当期変動額				
当期変動額合計		-		-
当期末残高		2,418,835		2,418,835
利益剰余金				
利益準備金				
当期首残高		110,093		110,093
当期変動額				
当期変動額合計		-		-
当期末残高		110,093		110,093
その他利益剰余金				
別途積立金				
当期首残高		1,600,000		1,600,000
当期変動額				
当期変動額合計		-		-
当期末残高		1,600,000		1,600,000
繰越利益剰余金				
当期首残高		1,595,308		1,391,801
当期変動額				
剰余金の配当		355,000		300,000
当期純利益		151,493		272,076
当期変動額合計		203,507		27,924
当期末残高		1,391,801		1,363,877

（ 単位：千円 ）

	第31期 （自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日）	第32期 （自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日）
利益剰余金合計		
当期首残高	3,305,400	3,101,893
当期変動額		
剰余金の配当	355,000	300,000
当期純利益	151,493	272,076
当期変動額合計	203,507	27,924
当期末残高	3,101,893	3,073,969
株主資本合計		
当期首残高	6,924,235	6,720,728
当期変動額		
剰余金の配当	355,000	300,000
当期純利益	151,493	272,076
当期変動額合計	203,507	27,924
当期末残高	6,720,728	6,692,804
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	369	8,441
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	8,071	20,481
当期変動額合計	8,071	20,481
当期末残高	8,441	12,041
評価・換算差額合計		
当期首残高	369	8,441
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	8,071	20,481
当期変動額合計	8,071	20,481
当期末残高	8,441	12,041
純資産合計		
当期首残高	6,923,866	6,712,288
当期変動額		
剰余金の配当	355,000	300,000
当期純利益	151,493	272,076
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	8,071	20,481
当期変動額合計	211,578	7,443
当期末残高	6,712,288	6,704,845

重要な会計方針

<p>1. 有価証券の評価基準及び評価方法</p>	<p>(1) 有価証券 満期保有目的の債券 償却原価法（定額法）を採用しております。 子会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。 その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。 時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。</p>
<p>2. 固定資産の減価償却の方法</p>	<p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定額法により償却しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 10年～24年 器具備品 4年～20年</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法により償却しております。 自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。</p> <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p>
<p>3. 引当金の計上基準</p>	<p>(1) 貸倒引当金</p>

	<p>債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務(直近の年金財政計算上の責任準備金をもって退職給付債務とする簡便法)及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 なお、会計基準変更時差異(7,388千円)については、15年による均等額を費用処理しております。</p> <p>(3) 賞与引当金 従業員に対する賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に帰属する額を計上しております。 なお、ある条件を満たした者に対して、一定金額を繰延支給する制度が導入されております。当該賞与は数年間に分割支給されるため、1年を超えて支払われる部分については固定負債に計上しております。</p> <p>(4) 役員賞与引当金 役員に対する賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に帰属する額を計上しております。 なお、ある条件を満たした者に対して、一定金額を繰延支給する制度が導入されております。当該賞与は数年間に分割支給されるため、1年を超えて支払われる部分については固定負債に計上しております。</p>
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	(1) 消費税等 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

注記事項

(貸借対照表関係)

第31期 (平成24年3月31日現在)	第32期 (平成25年3月31日現在)																																				
<p>*1 各科目に含まれる関係会社に対するものは以下のとおりであります。</p> <table data-bbox="263 1713 726 1921"> <tr><td>未収委託者報酬</td><td>43,036</td><td>千円</td></tr> <tr><td>未収運用受託報酬</td><td>23,404</td><td>千円</td></tr> <tr><td>未収投資助言報酬</td><td>19,632</td><td>千円</td></tr> <tr><td>未収収益</td><td>88,400</td><td>千円</td></tr> <tr><td>立替金</td><td>240</td><td>千円</td></tr> <tr><td>その他未払金</td><td>55,401</td><td>千円</td></tr> </table>	未収委託者報酬	43,036	千円	未収運用受託報酬	23,404	千円	未収投資助言報酬	19,632	千円	未収収益	88,400	千円	立替金	240	千円	その他未払金	55,401	千円	<p>*1 各科目に含まれる関係会社に対するものは以下のとおりであります。</p> <table data-bbox="836 1713 1299 1921"> <tr><td>未収委託者報酬</td><td>7</td><td>千円</td></tr> <tr><td>未収運用受託報酬</td><td>61,411</td><td>千円</td></tr> <tr><td>未収投資助言報酬</td><td>-</td><td>千円</td></tr> <tr><td>未収収益</td><td>29,393</td><td>千円</td></tr> <tr><td>立替金</td><td>-</td><td>千円</td></tr> <tr><td>その他未払金</td><td>46,863</td><td>千円</td></tr> </table>	未収委託者報酬	7	千円	未収運用受託報酬	61,411	千円	未収投資助言報酬	-	千円	未収収益	29,393	千円	立替金	-	千円	その他未払金	46,863	千円
未収委託者報酬	43,036	千円																																			
未収運用受託報酬	23,404	千円																																			
未収投資助言報酬	19,632	千円																																			
未収収益	88,400	千円																																			
立替金	240	千円																																			
その他未払金	55,401	千円																																			
未収委託者報酬	7	千円																																			
未収運用受託報酬	61,411	千円																																			
未収投資助言報酬	-	千円																																			
未収収益	29,393	千円																																			
立替金	-	千円																																			
その他未払金	46,863	千円																																			
*2 有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。	*2 有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。																																				

建物	53,646 千円	建物	61,093 千円
器具備品	129,811 千円	器具備品	140,127 千円

(損益計算書関係)

第31期 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	第32期 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)												
*1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、以下のとおりであります。 清算配当金 73,294千円	—												
*2 特別利益に含まれる清算配当金 清算配当金は、当社の子会社であるエスジーアセットマネジメント(シンガポール)株式会社の最終清算配当金であります。	—												
*3 特別損失に含まれる減損損失 当事業年度において、当社は以下の資産について減損損失を計上いたしました。	—												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>用途</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日比谷ダイビル18F</td> <td>処分予定資産</td> <td>建 物</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社は、資産運用会社であり、基本的に全資産が一体となってキャッシュフローを生み出す単位として取り扱っております。</p> <p>当社は、東京都千代田区に所在する日比谷ダイビルに本社事務所を賃貸しておりますが、事務所の18階借室部分を平成24年10月26日に返還することとなりました。その為、当初の予定より早期に資産を除却することが予定され、当該将来の使用が見込まれないものについては処分予定資産としてグルーピングを行っております。</p> <p>日比谷ダイビルの事務所18階借室部分の建物については、処分予定時における残存帳簿価格から直接減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">(減損損失の金額)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建 物</td> <td>8,822千円</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>8,822千円</td> </tr> </tbody> </table>	場所	用途	種類	日比谷ダイビル18F	処分予定資産	建 物	(減損損失の金額)		建 物	8,822千円	合 計	8,822千円	
場所	用途	種類											
日比谷ダイビル18F	処分予定資産	建 物											
(減損損失の金額)													
建 物	8,822千円												
合 計	8,822千円												
*4 特別損失に含まれる固定資産除却損 固定資産除却損は、NTT幕張ビルの事務所の移転等に伴い不要となった固定資産の除却であります。	*4 特別損失に含まれる固定資産除却損 固定資産除却損は、本社オフィスの18階借室部分の返還に伴い不要となった固定資産の除却であります。												

（株主資本等変動計算書関係）

第31期 （自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）					
1. 発行済株式に関する事項					
株式の種類	当事業年度期首 (千株)	増加 (千株)	減少 (千株)	当事業年度末 (千株)	
普通株式	2,400	-	-	2,400	
2. 配当に関する事項					
(1) 配当金支払額					
決議	株式の種類	配当金の 総額 (千円)	一株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成23年6月30日 定時株主総会	普通 株式	355,000	147円92銭	平成23年3月31日	平成23年6月30日
配当原資については、利益剰余金としております。					
(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの					
決議	株式の種類	配当金の 総額 (千円)	一株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成24年6月29日 定時株主総会	普通 株式	300,000	125円	平成24年3月31日	平成24年7月1日
配当原資については、利益剰余金としております。					

第32期 （自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）					
1. 発行済株式に関する事項					
株式の種類	当事業年度期首 (千株)	増加 (千株)	減少 (千株)	当事業年度末 (千株)	
普通株式	2,400	-	-	2,400	
2. 配当に関する事項					
(1) 配当金支払額					
決議	株式の種類	配当金の 総額 (千円)	一株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成24年6月29日 定時株主総会	普通 株式	300,000	125円	平成24年3月31日	平成24年7月1日
配当原資については、利益剰余金としております。					

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の 総額 (千円)	一株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成25年6月20日 定時株主総会	普通 株式	375,000	156円25銭	平成25年3月31日	平成25年6月20日

配当原資については、利益剰余金としております。

[次へ](#)

（リース取引関係）

ファイナンス・リース取引
所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産
器具備品

(2) リース資産の減価償却方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

（金融商品関係）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については、短期的な預金・有価証券等に限定しております。資金の調達については、銀行等金融機関から借入はありません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、相手先の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、相手先ごとの残高管理を行うとともに、延滞債権が発生した場合には管理部門役職者が顧客と直接交渉する体制としております。有価証券及び投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、運用先の信用リスクを極小化することを優先するため、主に国債もしくはこれに準ずるものに限定し、定期的に時価を把握し市場価格変動に留意しております。未払手数料は、支払期日に支払いを実行できなくなる流動性リスクに晒されておりますが、手許流動性を維持することにより管理しております。

当社は、事業活動において存在するリスクを適切に把握し、リスク管理を適切に実行すべく、リスク管理基本規程を設けております。有価証券を含む投資商品の投資については「シードマネーガイドライン」及び「資本剰余金及び営業キャッシュに係る投資ガイドライン」の規程に基づき決定され、担当部署において管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（(注2)参照）。

第31期（平成24年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	2,650,700	2,650,700	-
(2) 未収委託者報酬	1,049,520	1,049,520	-
(3) 未収運用受託報酬	598,799	598,799	-
(4) 有価証券及び投資有価証券	3,221,828	3,221,828	-
資産計	7,520,846	7,520,846	-

(1) 未払手数料	483,904	483,904	-
負債計	483,904	483,904	-

第32期（平成25年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	2,153,697	2,153,697	-
(2) 未収委託者報酬	1,127,856	1,127,856	-
(3) 未収運用受託報酬	718,958	718,958	-
(4) 有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券	744,922	753,515	8,593
その他の有価証券	2,708,394	2,708,394	-
資産計	7,453,827	7,462,420	8,593
(1) 未払手数料	573,177	573,177	-
負債計	573,177	573,177	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、及び(3) 未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、国債及び投資信託受益証券は、証券会社等からの時価情報によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項(有価証券関係)をご参照下さい。

負債

(1) 未払手数料

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

下記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。関係会社株式は、当社の100%子会社であるデラウェア社の株式です。

（単位：千円）

区 分	第31期(平成24年3月31日)	第32期(平成25年3月31日)
	貸借対照表計上額	貸借対照表計上額
関係会社株式	86,168	86,168

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

第31期（平成24年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金・預金	2,650,700	-	-	-
未収委託者報酬	1,049,520	-	-	-
未収運用受託報酬	598,799	-	-	-
有価証券及び投資有価証券 その他の有価証券のうち満期のあるもの(国債)	300,000	1,460,000	360,000	-

合計	4,599,019	1,460,000	360,000	-
----	-----------	-----------	---------	---

第32期（平成25年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金・預金	2,153,697	-	-	-
未収委託者報酬	1,127,856	-	-	-
未収運用受託報酬	718,958	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	-	-	700,000	-
その他の有価証券のうち満期のあるもの(国債)	370,000	1,450,000	-	-
合計	4,370,511	1,450,000	700,000	-

(有価証券関係)

第31期 (自平成23年4月1日至平成24年3月31日)				
1. 子会社株式 子会社株式(貸借対照表計上額86,168千円)は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。				
2. その他有価証券				
	種類	取得原価 (千円)	貸借対照表 計上額(千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式	-	-	-
	(2)債券	385,272	385,812	540
	(3)その他(注)	4,900	5,943	1,043
	小計	390,172	391,755	1,583
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式	-	-	-
	(2)債券	1,837,819	1,822,867	14,952
	(3)その他(注)	1,008,068	1,007,206	862
	小計	2,845,887	2,830,073	15,814
合計		3,236,059	3,221,828	14,231
(注) 投資信託受益証券であります				
3. 当事業年度中に売却したその他有価証券				
	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)	
投資信託	108,037	7,652	23	

第32期 (自平成24年4月1日至平成25年3月31日)	

1. 満期保有目的の債券

区分	貸借対照表計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	744,922	753,515	8,593
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	-	-	-
合計	744,922	753,515	8,593

2. 子会社株式

子会社株式(貸借対照表計上額86,168千円)は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

3. その他有価証券

	種類	取得原価(千円)	貸借対照表計上額(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式	-	-	-
	(2)債券	1,875,271	1,891,513	16,242
	(3)その他(注)	7,900	10,562	2,662
	小計	1,883,171	1,902,075	18,904
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式	-	-	-
	(2)債券	-	-	-
	(3)その他(注)	806,518	806,323	196
	小計	806,518	806,323	196
合計		2,689,686	2,708,394	18,708

(注) 投資信託受益証券であります

3. 当事業年度中に売却したその他有価証券

	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
投資信託	200,000	-	-

(デリバティブ取引関係)

当社は、デリバティブ取引を行っておりませんので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

第31期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1. 採用している退職給付制度の概要 当社は、確定給付企業年金制度、確定拠出年金制度及び退職一時金制度を有しております。

2. 退職給付債務及びその内訳

(1) 退職給付債務(千円)	255,385
(2) 年金資産(千円)	192,751
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2)(千円)	62,634
(4) 会計基準変更時差異の未処理額(千円)	1,478
(5) 貸借対照表計上額純額(3)+(4)(千円)	61,157
(6) 前払年金費用(千円)	-
(7) 退職給付引当金(5)+(6)(千円)	61,157

3. 退職給付費用の内訳

退職給付費用(千円)	249,207
(1) 確定拠出型年金掛金支払額(千円)	52,404
(2) 勤務費用(千円)	126,511
(3) 会計基準変更時差異の費用処理額(千円)	493
(4) 臨時に支払った割増退職金(千円)	69,800

4. 退職給付債務の計算基礎

退職給付の重要性が乏しいことから、退職給付に係る会計基準(「退職給付に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成10年6月16日))に定める簡便法による退職給付債務を用いて退職給付引当金及び退職給付費用を計上しているため、該当ありません。

第32期

(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付企業年金制度、確定拠出年金制度及び退職一時金制度を有しております。

2. 退職給付債務及びその内訳

(1) 退職給付債務(千円)	354,831
(2) 年金資産(千円)	295,087
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2)(千円)	59,744
(4) 会計基準変更時差異の未処理額(千円)	985
(5) 貸借対照表計上額純額(3)+(4)(千円)	58,759
(6) 前払年金費用(千円)	-
(7) 退職給付引当金(5)+(6)(千円)	58,759

3. 退職給付費用の内訳

退職給付費用(千円)	222,723
(1) 確定拠出型年金掛金支払額(千円)	46,260
(2) 勤務費用(千円)	168,695
(3) 会計基準変更時差異の費用処理額(千円)	493
(4) 臨時に支払った割増退職金(千円)	7,275

4. 退職給付債務の計算基礎

退職給付の重要性が乏しいことから、退職給付に係る会計基準（「退職給付に係る会計基準の設定に関する意見書」（企業会計審議会 平成10年6月16日））に定める簡便法による退職給付債務を用いて退職給付引当金及び退職給付費用を計上しているため、該当ありません。

（税効果会計関係）

第31期 (平成24年3月31日現在)	第32期 (平成25年3月31日現在)
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳
繰延税金資産 (千円)	繰延税金資産 (千円)
前受収益否認額 233,446	前受収益否認額 80,176
繰越欠損金 974,852	繰越欠損金 966,686
未払費用否認額 42,625	未払費用否認額 32,126
賞与引当金等損金算入限度超過額 26,968	賞与引当金等損金算入限度超過額 37,004
退職給付引当金損金算入限度超過額 21,796	退職給付引当金損金算入限度超過額 44,832
減価償却資産 18,095	減価償却資産 7,449
資産除去債務 22,173	資産除去債務 16,852
その他 17,433	その他 9,753
繰延税金資産小計 1,357,388	繰延税金資産小計 1,194,878
評価性引当金 1,176,212	評価性引当金 1,092,719
繰延税金負債との相殺 8,720	繰延税金負債との相殺 3,651
繰延税金資産合計 172,456	繰延税金資産合計 98,508
繰延税金負債	繰延税金負債
資産除去負債会計基準適用に伴う	資産除去負債 13,226
有形固定資産計上額 19,301	その他有価証券評価差額金 6,668
繰延税金負債小計 19,301	繰延税金負債小計 19,894
繰延税金資産との相殺 8,720	繰延税金資産との相殺 3,651
繰延税金負債合計 10,581	繰延税金負債合計 16,243
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳	2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳
当事業年度は税引前当期純利益となっておりますが、税務上の課税所得が発生していないため記載を省略しております。	同左
3. 法定実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正	3. 法定実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成24年4月1日以後に解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前事業年度の40.7%から回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは38.0%、平成28年4月1日以後のものについては35.6%にそれぞれ変更されております。なお、この税率変更による影響額は軽微であります。

（資産除去債務関係）

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

（1）資産除去債務の概要

当社は、本社オフィスに関して、建物所有者との間で貸室賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復する義務を有しているため、契約上の義務に関して資産除去債務を計上しております。

（2）当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を17年間（建物の減価償却期間）と見積り、割引率は当該減価償却期間に見合う国債の流通利回り（2.0%）を使用して、資産除去債務の金額を計算しております。

（3）事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

	第31期 （自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日）	第32期 （自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日）
期首残高	58,469千円	62,213千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	3,632千円	-千円
時の経過による調整額	1,224千円	1,133千円
資産除去債務の履行による減少額	1,112千円	12,429千円
期末残高	62,213千円	50,917千円

（セグメント情報等）

（セグメント情報）

第31期（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）及び第32期（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

当社は「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業を行っております。当社は、投資運用業及び投資助言・代理業にこれらの附帯業務を集約した単一セグメントを報告セグメントとしております。

従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

（関連情報）

第31期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1. 製品およびサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

第32期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 製品およびサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

投資信託の名称	委託者報酬	関連するセグメント名
アムンディ・リソナ米国ハイ・イールド債券ファンド (ブラジルリアルコース)	949,852	投資運用業及び投資助言・代理 業並びにこれらの附帯業務

(報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報)

第31期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)及び第32期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

当社は開示対象となるセグメントはありませんので、報告セグメントごとの固定資産の減損損失の記載を省略しております。

(報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報)

第31期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) 及び第32期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報)

第31期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) 及び第32期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

第31期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1) 当社の親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				

親会社	アムンディ・エス・アール	フランスパリ市	584,711 (千ユーロ)	投資顧問業	(被所有)間接 100%	なし	投資信託、投資顧問契約の再委任等	運用受託報酬 *1	105,079	未収運用受託報酬	23,404
								委託者報酬 *1	52,734	未収委託者報酬	43,036
								投資助言報酬 *1	8,810	未収投資助言報酬	19,632
								情報提供、コンサルティング料（その他営業収益） *1	351,338	未収収益	88,400
								委託調査費等の支払 *2	177,464	未払金	55,401

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

*1 各報酬等については、当該各契約に基づいて決定しております。

*2 委託調査費等の支払については、ファンドの運用資産の割合に応じた一定の比率により決定しております。

(2) 子会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
子会社	エスジーアセットマネジメント(シンガポール)株式会社	シンガポールシンガポール市	-	投資顧問業	(所有)直接 85%	なし	アジア地域の運用拠点	清算受取配当金	73,294	-	-

(注) エスジーアセットマネジメント(シンガポール)株式会社は平成24年4月30日に解散手続を終了しております。

(3) 兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
兄弟会社	アムンディ・インベストメント・ソリューションズ	フランスパリ市	78,077 (千ユーロ)	投資顧問業	-	なし	投資助言契約の再委任等	委託調査費等の支払 *1	237,309	前払費用	192,938
										未払金	4,293
兄弟会社	アムンディ・ルクセンブルグ	ルクセンブルグ	6,805 (千ユーロ)	投資顧問業	-	なし	運用再委託	運用受託報酬 *2	67,775	未収運用受託報酬	67,387
								委託者報酬 *2	41,357	未収委託者報酬	60,729
								投資助言報酬 *2	18,137	未収投資助言報酬	18,137

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

*1 委託調査費等の支払については、ファンドの運用資産の割合に応じた一定の比率により決定しております。

*2 各報酬等については、当該各契約に基づいて決定しております。

第32期(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1) 当社の親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関係内容		取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
						役員の兼任等	事業上の関係				
親会社	アムンディ・エス・アー	フランスパリ市	584,711 (千ユーロ)	投資顧問業	(被所有)間接100%	なし	投資信託、投資顧問契約の再委任等	運用受託報酬 *1	98,859	未収運用受託報酬	61,411
								委託者報酬 *1	7,816	未収委託者報酬	7
								投資助言報酬 *1	14,132	未収投資助言報酬	-
								情報提供、コンサルティング料（その他営業収益） *1	196,929	未収収益	29,393
								委託調査費等の支払 *2	181,969	未払金	46,863

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

*1 各報酬については、当該各契約に基づいて決定しております。

*2 委託調査費等の支払については、ファンドの運用資産の割合に応じた一定の比率により決定しております。

(2) 兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関係内容		取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
						役員の兼任等	事業上の関係				
兄弟会社	アムンディ・インベストメント・ソリューションズ	フランスパリ市	78,077 (千ユーロ)	投資顧問業	-	なし	投資助言契約の再委任等	委託調査費等の支払 *1	180,803	前払費用	92,906
										未払金	4,801

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

*1 委託調査費等の支払については、ファンドの運用資産の割合に応じた一定の比率により決定しております。

2. 親会社に関する注記

親会社情報

アムンディ・ジャパン ホールディング株式会社(非上場)

アムンディ エス・アー(非上場)

アムンディ・グループ エス・アー(非上場)

クレディ・アグリコル エス・アー(ユーロネクスト パリに上場)

(一株当たり情報)

第31期 (自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日)		第32期 (自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日)	
1株当たり純資産額	2,796.79円	1株当たり純資産額	2,793.69円
1株当たり当期純利益金額	63.12円	1株当たり当期純利益金額	113.36円

なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

当期純利益	151,493千円
普通株式に係る当期純利益	151,493千円
期中平均株式数	2,400千株

なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

当期純利益	272,076千円
普通株式に係る当期純利益	272,076千円
期中平均株式数	2,400千株

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託会社

< 訂正前 >

- ・ 名称 株式会社_りそな銀行
- ・ 資本金の額 279,928百万円（平成24年9月末日現在）

（略）

< 訂正後 >

- ・ 名称 株式会社りそな銀行
- ・ 資本金の額 279,928百万円（平成25年3月末日現在）

（略）

(2) 販売会社

< 訂正前 >

- ・ 名称 株式会社_りそな銀行
- ・ 資本金の額 279,928百万円（平成24年9月末日現在）

（略）

- ・ 名称 株式会社_埼玉りそな銀行
- ・ 資本金の額 70,000百万円（平成24年9月末日現在）

（略）

- ・ 名称 株式会社_近畿大阪銀行
- ・ 資本金の額 38,971百万円（平成24年9月末日現在）

（略）

< 訂正後 >

- ・ 名称 株式会社りそな銀行
- ・ 資本金の額 279,928百万円（平成25年3月末日現在）

（略）

- ・ 名称 株式会社埼玉りそな銀行
- ・ 資本金の額 70,000百万円（平成25年3月末日現在）

（略）

- ・ 名称 株式会社近畿大阪銀行
- ・ 資本金の額 38,971百万円（平成25年3月末日現在）

（略）

2【関係業務の概要】

(1) 受託会社

<再信託受託会社の概要>

<訂正前>

- ・名称 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社
 - ・資本金の額 51,000百万円（平成24年9月末日現在）
- （略）

<訂正後>

- ・名称 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社
 - ・資本金の額 51,000百万円（平成25年3月末日現在）
- （略）

独立監査人の監査報告書

平成25年6月26日

アムンディ・ジャパン株式会社

取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 鶴田 光夫

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているアムンディ・米国・ユーロ投資適格債ファンドの平成24年11月13日から平成25年5月13日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アムンディ・米国・ユーロ投資適格債ファンドの平成25年5月13日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

アムンディ・ジャパン株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成25年6月12日

アムンディ・ジャパン株式会社

取締役会御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 鶴田光夫 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているアムンディ・ジャパン株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第32期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アムンディ・ジャパン株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。